

ユー・エス・エス

4732 東証 1 部

2014 年 9 月 11 日 (木)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
佐藤 譲

■ 新車販売の回復を背景に出品台数の拡大を見込む

ユー・エス・エス<4732>(以下USS)は、中古自動車のオークション運営事業で市場シェア32.3%とトップ。子会社を通じ、中古自動車等買取販売事業やリサイクル事業なども手掛ける。営業利益率で50%に迫る高い収益性と、400億円を上回る潤沢なネットキャッシュを背景に、株主還元にも積極的(連結配当性向45%以上)な企業として注目される。

2015年3月期第1四半期(2014年4-6月期)の連結業績は、売上高が前年同期比0.7%減、経常利益が同1.2%増とほぼ会社計画どおりの決算となった。主力のオークション事業では、消費税の反動で成約台数が減少したものの、出品台数の増加で売上高は前年同期比0.8%増に、また、営業利益も同0.3%増と堅調に推移した。また、子会社で展開する中古自動車等買取販売事業は、買取台数の減少で減益となったものの、リサイクル事業の好調で相殺する格好となった。

2015年3月期は、売上高が前期比0.4%増、経常利益が同0.7%増と微増収増益を見込む。同社ではオークションへの出品台数拡大を図るため、会場設備などの更新投資を進めていく方針。前年8月に名古屋新会場をオープンしたのに続き、今年8月には岡山新会場をオープンさせ、オークション参加者の増加を見込んでいる。また、今後も老朽化の進んだ地方会場において、良い立地条件の土地が見つければ新会場を建設していくことも視野に入れており、出品台数シェアの拡大につなげていきたい考えだ。

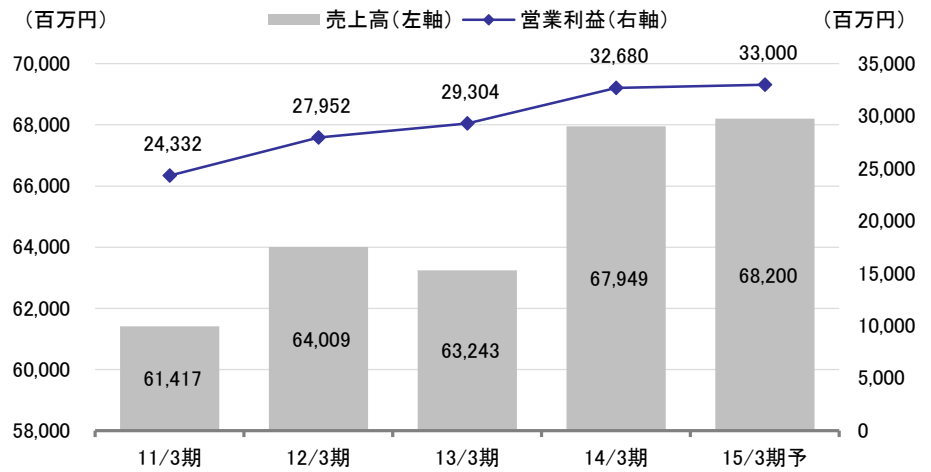
同社は今回、新たに株主優待制度の拡充策を発表した。従来、対象外であった100株以上500株未満の株主に対して、500円のクオカード1枚(年2回)、500株以上1,000株未満の株主に対して、三井住友VJAギフトカード2,000円分(年2回)を贈呈する。個人安定株主数の拡大を目的としたもので、現在の株価水準で見れば0.5%程度の利回り上昇につながる。

■ Check Point

- ・オークション会場の競争力は引き続き強さをキープ
- ・新たに株主優待制度の拡充策を発表

2014 年 9 月 11 日 (木)

売上高と営業利益の推移

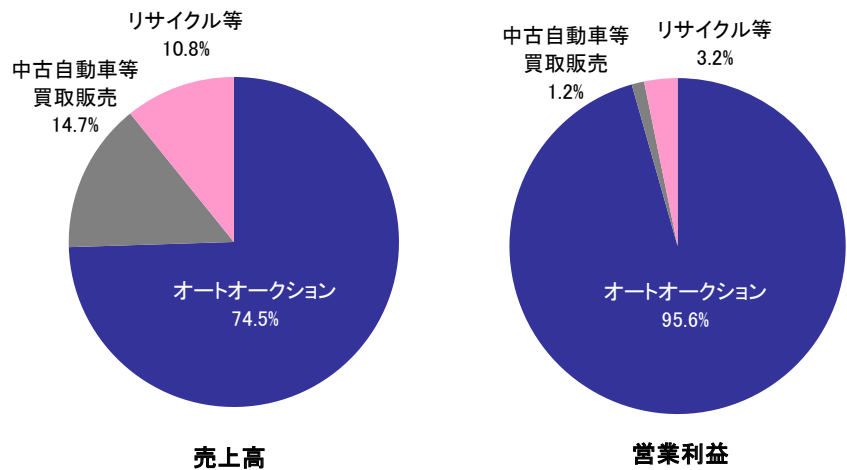


■ 事業概要

オークション出品台数シェアは 2 位以下を大きく引き離す

同社の事業セグメントは、オートオークション事業、中古自動車等買取販売事業、その他事業と 3 つに区分されており、このうちオートオークション事業が売上高の 74.5%、営業利益の 95.6% 超を占める主力事業となっている。

売上高・営業利益の構成比 (2015/3期 第1四半期)



(1) オートオークション

オートオークション事業では、運営会場を国内 17ヶ所で展開している。主な収入は出品会員から徴収する出品手数料及び成約手数料、落札会員から徴収する落札手数料からなる。



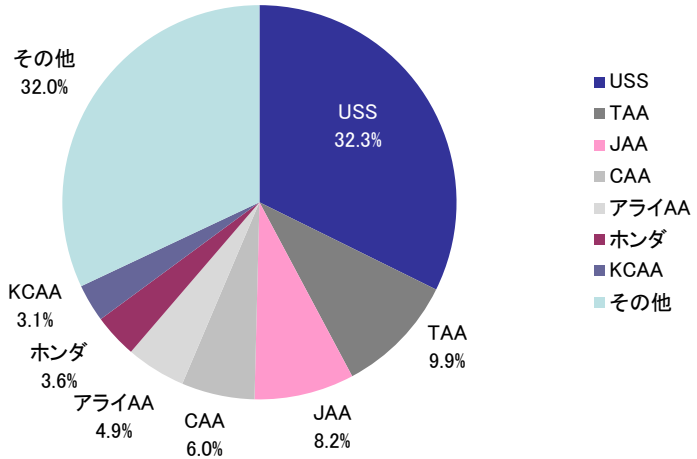
ユー・エス・エス

4732 東証 1 部

2014 年 9 月 11 日 (木)

USS グループのオークション出品台数シェアは、2014 年 1-6 月実績で 32.3% と 2 位以下を大きく引き離れた業界最大手となっている。現車会員数は 45,924 社 (2014 年 6 月末) と圧倒的な数を誇っている。東京会場や名古屋会場など大規模会場を利便性の良い郊外に立地し、良質な中古車を大量出品することで集客力を高め、成約台数を増やす (= さらに出品台数が増加する) ビジネス戦略をとっているのが特徴だ。

オートオークション出品台数シェア(2014年1-6月)

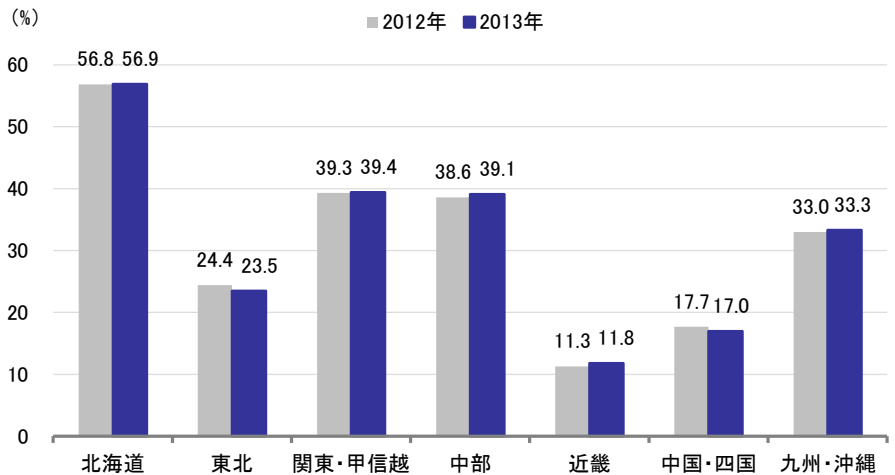


出所：株式会社ユーストカー

地域別出品台数シェアで見ると、USS グループは北海道、関東・甲信越、中部、九州・沖縄地区でトップシェアとなっている。反面、近畿、中国・四国地区ではシェアが 10% 台にとどまる。うち近畿では JAA の 100% 子会社である HAA 神戸が 36.5% と強く、同社は 2 番手に位置している。一方、中国・四国地区ではトップが JU 広島島の 17.2% であり、僅差の 2 位となっている。

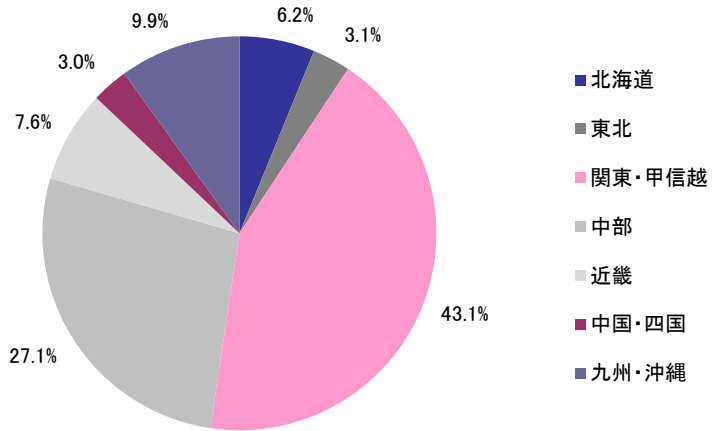
また、同社の地域別出品台数構成比では、関東・甲信越が 43.1%、次いで中部が 27.1% となっており、この 2 ブロックで全体の約 70% の比率を占めている。

USS地域別出品台数シェア



出所：株式会社ユーストカー

USSグループ 地域別構成比(出品台数、2014年4-6月)



中古車の買取チェーン店を全国展開し出品する中古車を確保

(2) 中古自動車等買取販売

子会社の(株)R&Wで展開している。オークションに出品する中古車を1台でも多く確保するために、中古車の買取チェーン店「ラビット」を全国に171店舗(うちFC店148店)展開している。また、事故現状車の買取も手掛けており、大半をオークションに出品している。同部門売上高は全体の14.7%を占めるが、営業利益の比率は1.2%と低く、オークション運営事業の補完的事業としての位置付けとなっている。

リサイクル事業や中古自動車の輸出手続代行サービスを展開

(3) その他

その他事業では、子会社の(株)アビツや(株)カークエスト東洋事業部でリサイクル事業を手掛けている。アビツは廃自動車の解体などによって生じる鉄スクラップや中古パーツなどの販売、カークエスト東洋事業部では廃タイヤなどを原料とし、弾性舗装用ゴムなどの製品化を行っている。

また、(株)USSロジスティクス・インターナショナル・サービスは、中古自動車の輸出手続代行サービスを展開。サービス拠点は東京会場と横浜会場の2拠点で、同会場で成約した輸出業者向けのサービスとなる。その他部門の売上高構成比は10.8%、営業利益は3.2%となっている。

15年3月期の1Q業績は売上高、利益ともに会社計画通り

(1) 2015年3月期第1四半期業績概要

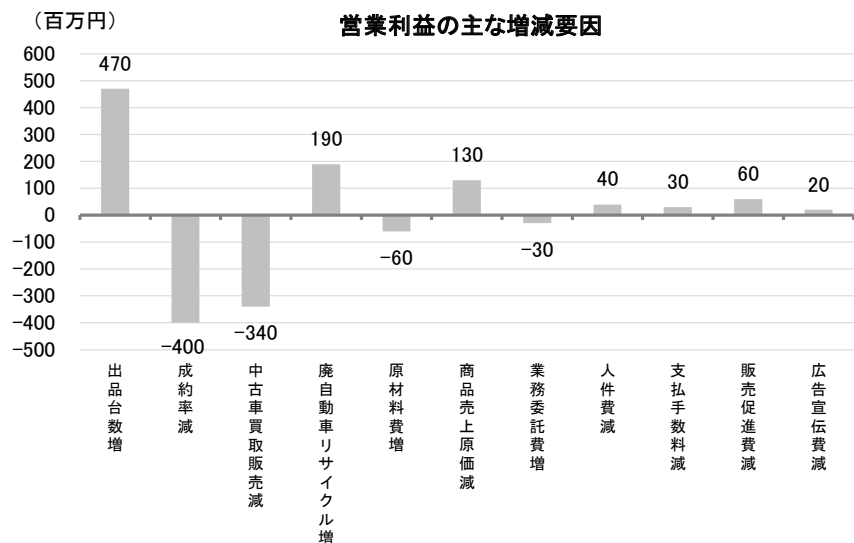
8月4日付で発表された2015年3月期第1四半期の連結業績は、売上高が前年同期比0.7%減の16,282百万円、営業利益が同1.0%増の8,050百万円、経常利益が同1.2%増の8,192百万円、四半期純利益が同5.9%増の5,243百万円となり、売上高、利益ともにほぼ会社計画通りの進捗となった。主力のオートオークション事業は売上高、利益とも前年同期並みの水準となり、中古自動車等買取販売事業の減益分をその他事業（リサイクル事業等）の増益でカバーした格好だ。

2015年3月期第1四半期連結業績

(単位：百万円)

	14/3期1Q		15/3期1Q		
	実績	対売上比	実績	対売上比	前年比
売上高	16,400	-	16,282	-	-0.7%
売上原価	6,244	38.1%	6,221	38.2%	-0.4%
販管費	2,188	13.3%	2,010	12.3%	-8.2%
営業利益	7,967	48.6%	8,050	49.4%	1.0%
経常利益	8,092	49.3%	8,192	50.3%	1.2%
特別損益	-21	-	57	0.4%	-
四半期純利益	4,949	30.2%	5,243	32.2%	5.9%

営業利益の主な増減要因はグラフのとおりで、オークション事業における出品台数の増加や廃自動車リサイクル事業の増益に加えて、広告宣伝費や販促費、人件費等販管費の抑制などが増益要因となり、オークション成約台数の減少や中古自動車買取事業、業務委託費の増加などが減益要因となった。



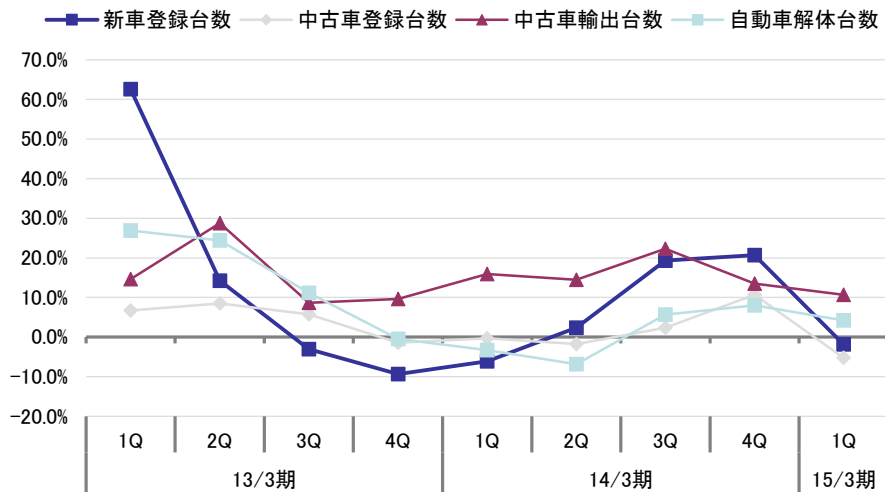
2014 年 9 月 11 日 (木)

中古車市場は円安を追い風に輸出が好調

(2) 市場環境

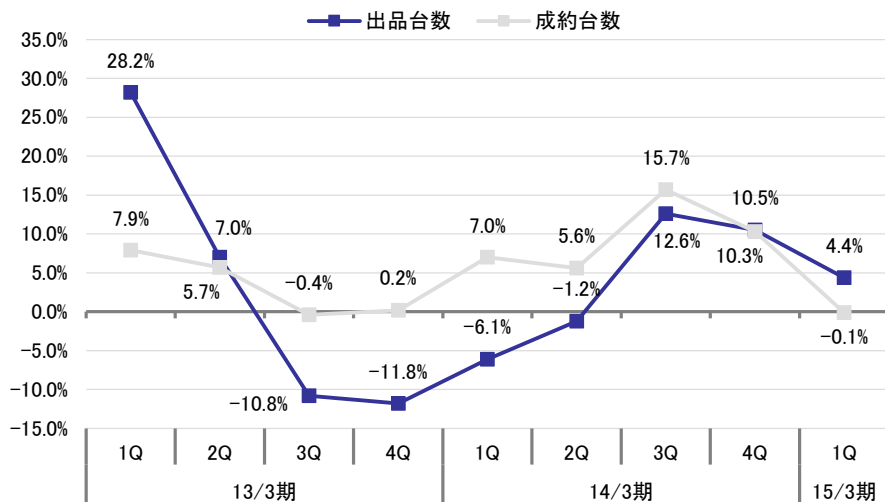
2014 年 4-6 月の市場環境を見ると、新車販売に関しては消費税増税前の駆け込み需要の反動で前年同期比 1.9% 減とマイナスに転じ、中古車登録台数も同様に同 5.2% 減と 3 四半期ぶりにマイナスに転じた。一方、中古車輸出に関しては引き続き円安を追い風にして、アフリカやミャンマーなど新興国向けに同 10.7% 増と好調を持続。また、自動車解体台数も同 4.2% 増と堅調に推移した。

業界統計(前年同期比増減率)



中古車オークション市場全体の出品台数は、前年同期比 4.4% 増と伸び率は鈍化したものの、プラス基調を持続。ただ、成約台数は消費税増税の影響もあり、同 0.1% 減と前年同期並みとなった。

中古車オークション出品・成約台数の増減推移



2014 年 9 月 11 日 (木)

※ 陸送補助制度・・・会場から一定距離を超える遠方から参加する出品業者に対して、出品車両の輸送費を一定割合補助する制度。不公平感も出ることから撤廃した。

オークション会場の競争力は引き続き強さをキープ

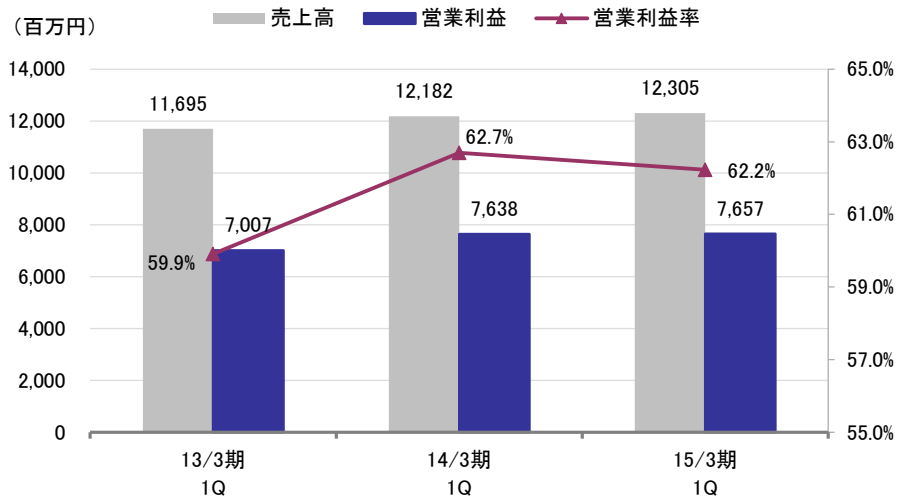
(3) 事業セグメント別動向

○オートオークション事業

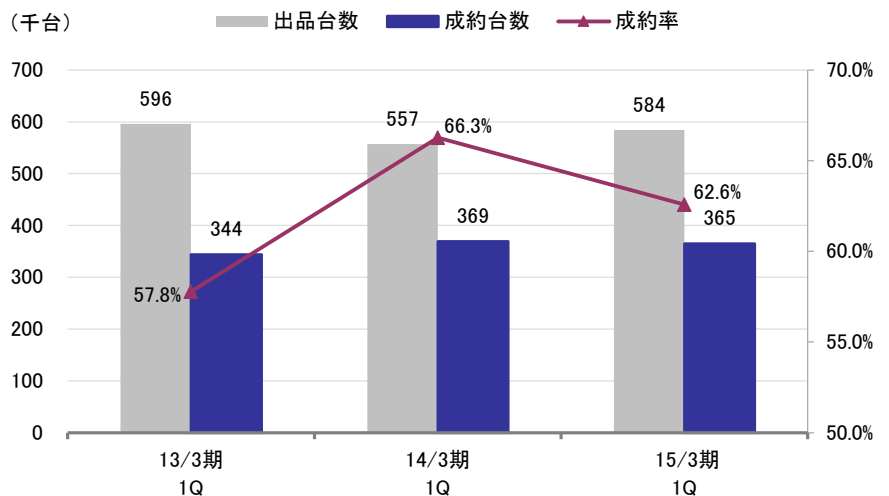
売上高は前年同期比 1.0% 増の 12,305 百万円、営業利益は同 0.3% 増の 7,657 百万円となった。オートオークション出品台数が同 4.7% 増の 58.4 万台、成約台数が同 1.1% 減の 36.5 万台、成約率は 62.6% (前年同期 66.3%) となり、いずれも会社計画どおりの進捗となっている。商品売上原価が増加した一方で、キャンペーンの見直しで販促費や広告宣伝費が減少し増益を維持した。

会場別の出品台数動向を見ると、大阪、岡山会場がそれぞれ前年同期比 14.0% 増、15.4% 増と好調に推移したほか、主力会場である東京会場では 6.5% 増、前年 8 月に新会場をオープンした名古屋会場も 4.8% 増といずれも順調に拡大した。一方、落ち込みが目立ったのが北陸会場で 17.3% の減少となった。これは前年 10 月から陸送補助制度※を撤廃した影響が大きい。

オートオークション事業の業績推移



USS出品・成約台数と成約率の推移

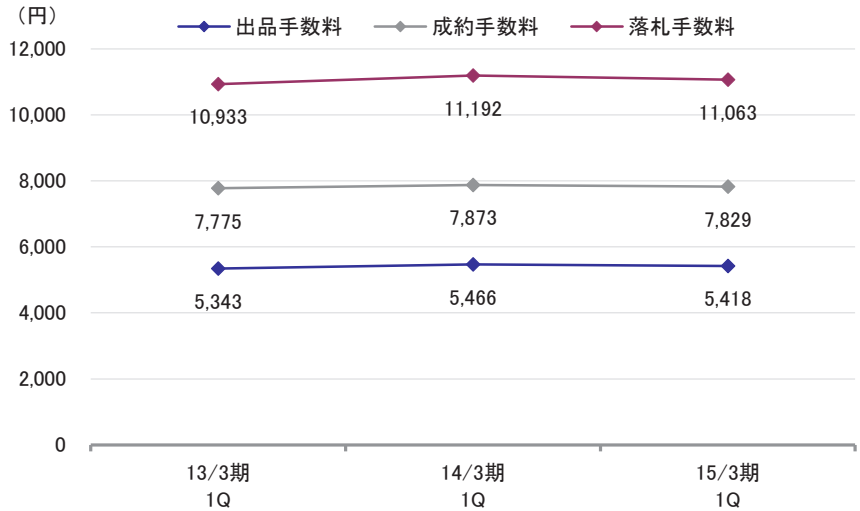


2014 年 9 月 11 日 (木)

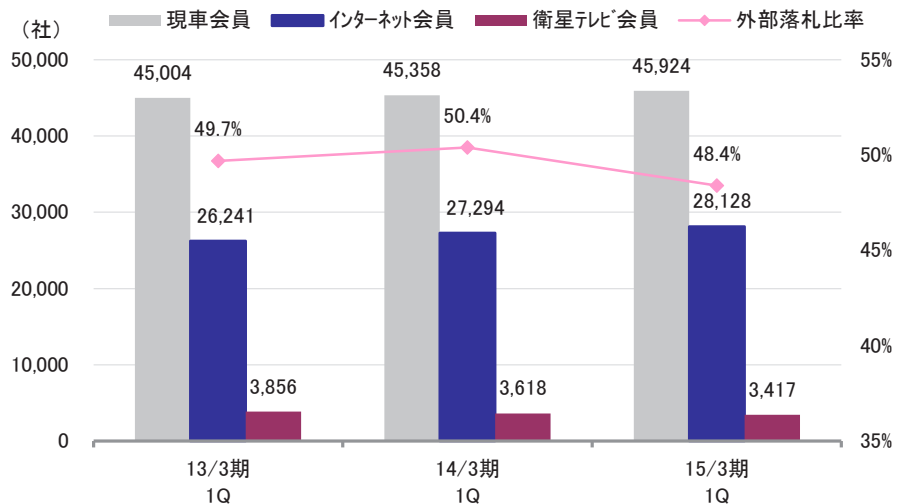
手数料単価の動向を見ると、1 台当たり出品手数料は 5,418 円と前年同期比で 48 円低下した。東京会場で低額車コーナーを新設したことで低額車の台数が増加したこと、手数料単価の低い大口出品割合が増加したことが要因だ。一方、成約手数料も大口出品割合が増加したことで 7,829 円と同 44 円の低下となった。また、ここ数年外部落札比率の上昇や手数料の値上げで上昇傾向が続いていた落札手数料に関しては、11,063 円と同 129 円の低下となった。手数料単価の高い外部落札比率が 48.4%と前年同期の 50.4%から低下したことが要因だ。外部落札率の低下要因としては、従来、外部落札してきた輸出業者が取扱台数の増加とともに、オークション会場に会場して落札するケースが増えたためとみられる。

この結果、手数料売上高の内訳は、出品手数料が前年同期比 3.8% 増、成約手数料が同 1.7% 減、落札手数料が同 2.3% 減となった。

1台当たり手数料の推移



USSの会員数と外部落札比率の推移



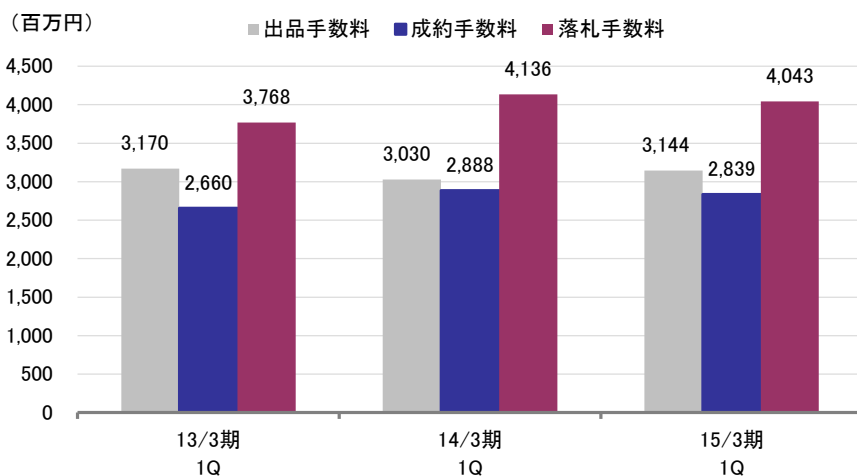


ユー・エス・エス

4732 東証 1 部

2014 年 9 月 11 日 (木)

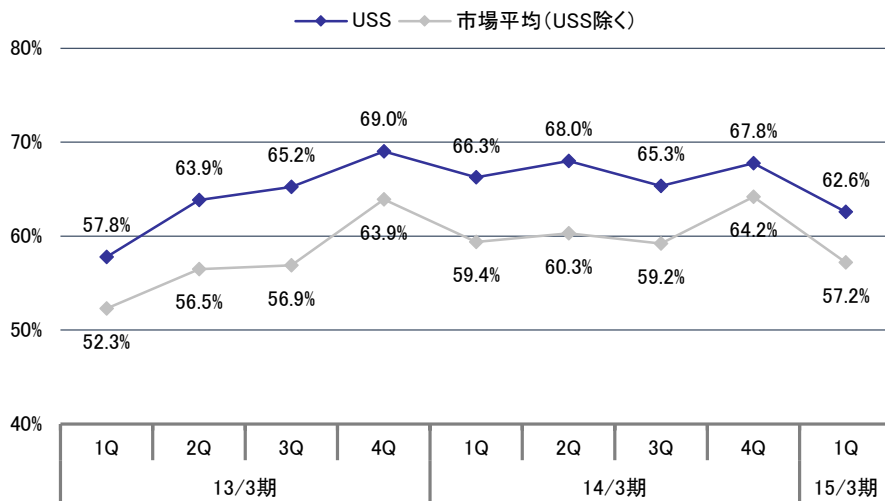
各手数料売上高の推移



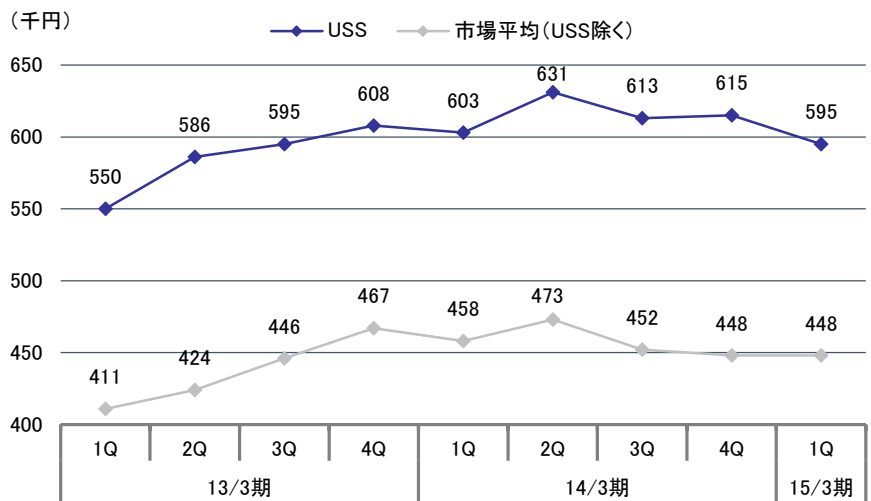
※売上高は外部顧客に対する売上高

なお、同社のオークション会場の競争力は、引き続き強さをキープしている。これは USS グループのオークション会場と他会場での成約率の差、あるいは 1 台当たり成約車両金額の差から見て取れる。同社の成約車両金額が前四半期比で若干低下しているが、これは前述したように、低額車コーナーの新設による台数増加が影響したものと考えられる。2014 年 1-6 月の出品台数シェアは 32.3% と 2013 年の 31.8% から上昇しており、同社が進める「オークション会場としての質を維持しながら、出品台数シェアの拡大を図る」戦略は順調に進行していると言えよう。

オークション成約率の推移



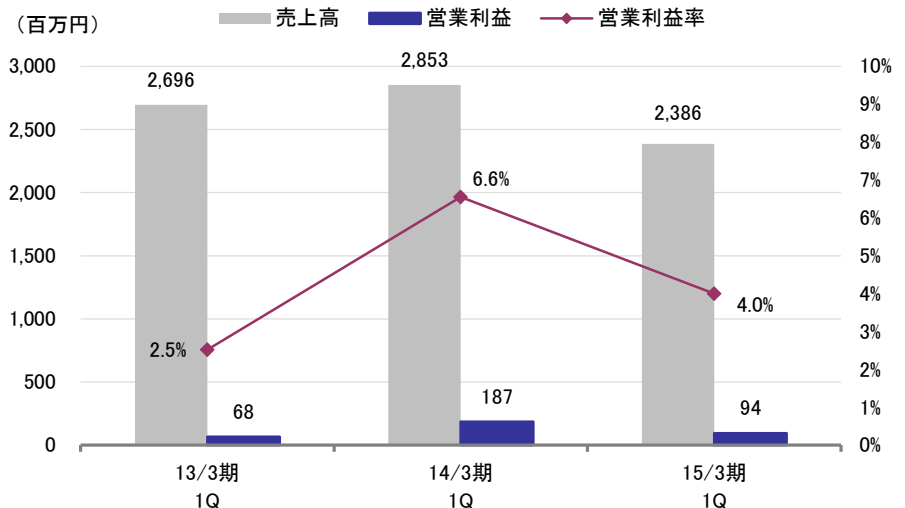
1台当たり成約車両金額の推移



○中古自動車等買取販売事業

売上高は前年同期比 16.3% 減の 2,386 百万円、営業利益は同 49.4% 減の 94 百万円と会社計画をやや下回った。このうち中古自動車買取販売のラビット事業は、売上高が同 17.9% 減の 1,589 百万円、営業利益が同 32.1% 減の 89 百万円に、事故現状車買取販売事業は売上高が同 13.0% 減の 797 百万円、営業利益が同 90.2% 減の 5 百万円となった。いずれも、新車販売の減少による取扱台数の減少が影響した。

中古自動車等買取販売事業の業績推移



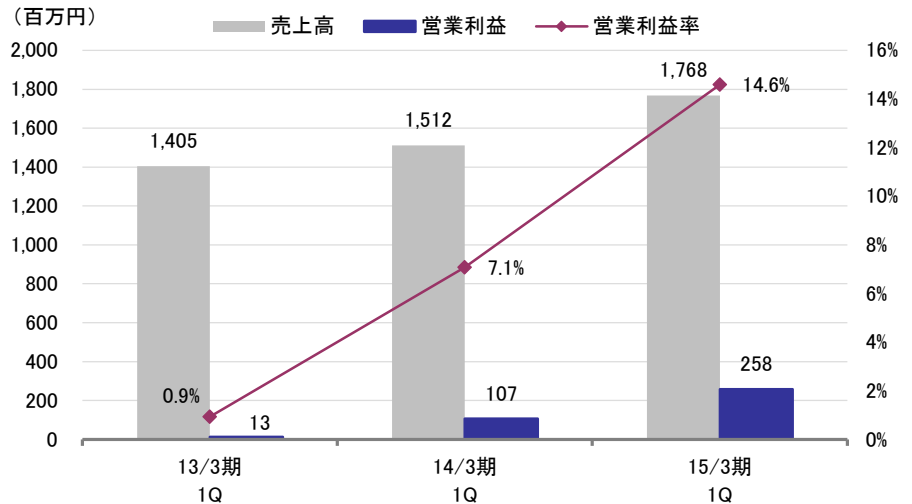
○その他事業

売上高は前年同期比 16.9% 増の 1,768 百万円、営業利益は同 141.5% 増の 258 百万円と大幅増益となり、会社計画を上回る格好となった。このうち、廃自動車等のリサイクル事業を手掛けるアビヅは、売上高が同 16.8% 増の 1,324 百万円、営業利益が同 103.3% 増の 178 百万円となった。廃自動車等の取扱量が増加したことに加え、鉄スクラップの相場が高値安定で推移したことが要因だ。

廃ゴムのリサイクル事業を手掛けるカークエスト東洋事業部の売上高は前年同期比 10.2% 増の 272 百万円、営業利益は前年同期の 3 百万円から 39 百万円に拡大した。収益性の高いカラー着色弾性舗装用ゴム製品の売上が好調に推移したのが主因だ。また、中古自動車の輸出手続代行サービス事業を手掛ける USS ロジスティクス・インターナショナル・サービスも売上高が同 11.1% 増の 146 百万円、営業利益が同 87.1% 増の 29 百万円と好調に推移した。輸出業者の取扱台数が増加したことに加えて、検査業務の内製化を進めたことで、収益性が向上した。

2014 年 9 月 11 日 (木)

■ その他事業の業績推移



■ 2015 年 3 月期業績見通し

■ 通期業績予想は期初計画を据え置き、環境面では好転の兆しも

2015 年 3 月期の連結業績は、売上高が前期比 0.4% 増の 68,200 百万円、営業利益が同 1.0% 増の 33,000 百万円、経常利益が同 0.7% 増の 33,500 百万円、当期純利益が同 6.7% 増の 21,300 百万円と期初計画を据え置いている。

今年度の市場環境としては、新車販売の落ち込みで中古車の供給台数は全体では伸び悩むものの、同社はシェア拡大によって、出品台数で前期比 6.3% 増の 245 万台、成約台数で同 1.4% 減の 151 万台、成約率で 62.0% (前期 66.8%) を計画しており、出品台数の市場シェアとしては 34.0% まで拡大する計算となる。



事業別売上高の推移

(単位：百万円)

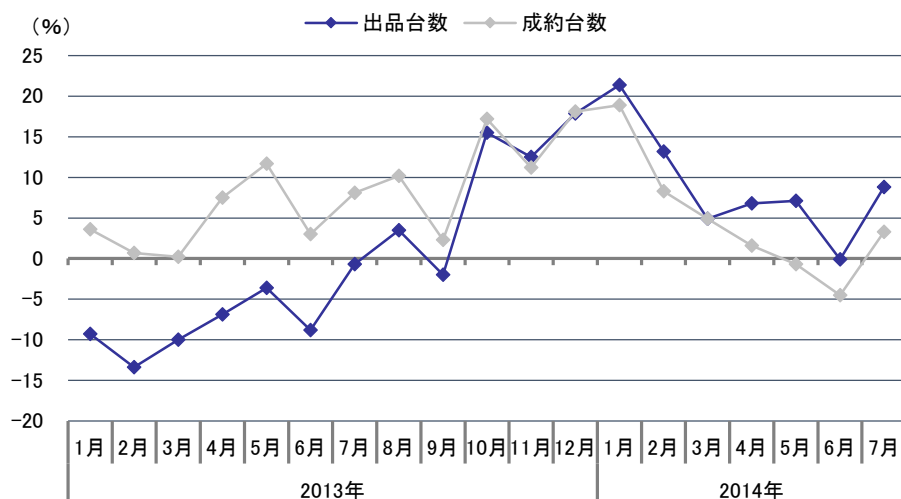
	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期予	伸び率
オートオークション事業	43,177	45,840	45,909	49,479	49,717	0.5%
出品手数料	10,822	12,154	11,817	12,241	12,910	5.5%
成約手数料	10,559	10,984	10,873	11,958	11,783	-1.5%
落札手数料	14,142	15,026	15,626	17,190	16,952	-1.4%
商品売上高	848	805	624	905	898	-0.9%
その他営業収入	6,804	6,869	6,967	7,184	7,172	-0.2%
中古自動車等買取販売事業	12,494	12,476	11,545	11,621	11,644	0.2%
中古自動車買取販売	8,456	8,535	8,106	7,867	7,834	-0.4%
事故現状車買取販売	4,038	3,940	3,438	3,754	3,810	1.5%
その他事業	5,745	5,692	5,789	6,848	6,837	-0.1%
廃自動車等のリサイクル	4,566	4,275	4,016	4,816	4,698	-2.4%
廃ゴムのリサイクル	1,178	1,250	1,335	1,498	1,501	0.2%
中古自動車の輸出手続代行サービス	-	166	437	500	564	12.7%
その他	-	-	-	32	73	125.5%
合計	61,417	64,009	63,243	67,949	68,200	0.4%
出品台数(千台)	2,121	2,252	2,199	2,305	2,450	6.3%
成約台数(千台)	1,361	1,414	1,405	1,541	1,519	-1.4%
成約率(%)	64.2	62.8	63.9	66.8	62.0	-4.8pt
1台当たり出品手数料	5,139	5,432	5,407	5,344	5,299	-0.8%
1台当たり成約手数料	7,831	7,832	7,802	7,821	7,815	-0.1%
1台当たり落札手数料	10,393	10,626	11,124	11,157	11,161	0.0%

※売上高は外部顧客に対する売上高

セグメント別では、オークション事業の外部顧客に対する売上高が前期比0.5%増の49,717百万円と微増収となる見通し。主要会場での効果的なキャンペーン割引実施や、集客に向けた営業を強化することで、出品台数を前期比6.3%増と伸ばし、成約台数の落ち込みによる減収分をカバーする計画だ。手数料単価に関しては、出品手数料が若干低下するものの、成約手数料、落札手数料はほぼ前期並みの水準を想定している。

足元の月次状況に関して、7月は出品台数が前年同月比8.8%増、成約台数が同3.3%増と堅調な推移となった。但し、東京会場が曜日の関係で1開催多かったため、曜日を合わせた実質の伸び率は出品台数が3.8%増、成約台数が1.5%減と計画よりも若干弱めの結果となった。新車販売台数では、7月は登録車が前年同月比0.6%増、軽自動車と同7.1%減、合計2.5%減となり、登録車は増税後に初のプラスに転じるなど、環境面では好転の兆しも見え始めている。中古車AA市場に関しても8月下旬以降に出品台数、成約台数とも上向きに転じてくるものと予想される。

USSオークション出品・成約伸び率の推移(月次)



中古自動車等買取販売事業については、第1四半期が減収減益と低迷したが、下期以降は新車販売の回復を背景に挽回し、通期の外部顧客に対する売上高は前期比0.2%増の11,644百万円とほぼ横ばい水準となる見通し。ただ、利益面ではオークション相場の軟化を想定しており、減益を見込んでいる。

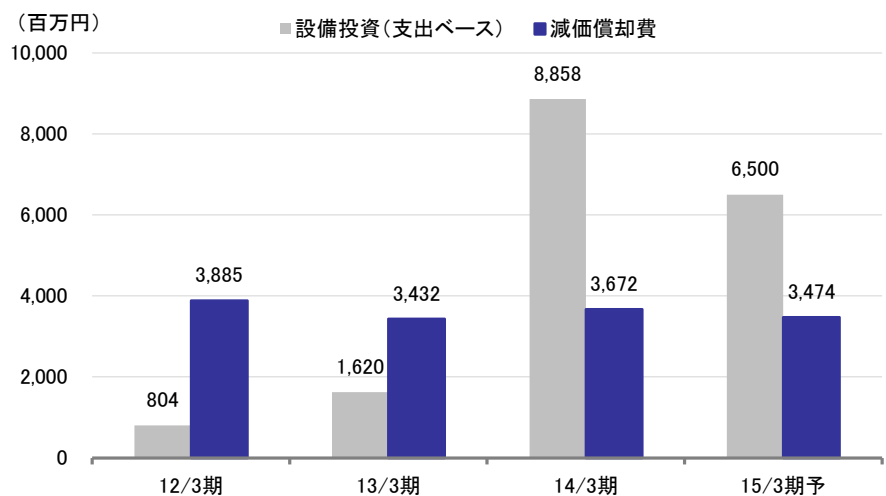
その他事業の外部顧客に対する売上高は、前期比0.1%減の6,837百万円を見込んでいる。このうち、中古車輸出手続代行サービスは、円安を背景に同12.7%増と好調が続く見通し。一方、廃自動車等リサイクル事業に関しては、鉄スクラップ市況の軟化を想定しており、同2.4%減収と保守的な計画となっている。一方、廃ゴムリサイクル事業に関しては売上高、利益ともに前期並みの水準を想定している。

今期の設備投資額(支出ベース)は6,500百万円を計画。新築移転する新岡山会場への投資額は3,500百万円で、2014年8月23日にオープンした。会場の立地場所が山陽自動車道「山陽IC」出口すぐの場所にあり、交通の利便性が向上することで、オークション参加者、並びに出品台数の増加が期待される。

岡山会場の出品台数は2014年3月期実績で7.1万台だが、同社では早期に10万台まで拡大していきたい考え。そうなれば、中国・四国地区での地域シェアも17%から25%程度まで上昇し、トップに躍り出ることになる。

その他のオークション会場についても、出品台数の強化や会員の利便性向上につながるような各種設備の追加・更新投資を計画している。また、老朽化が進んでいる北陸会場や群馬会場、静岡会場では、移転も含めて会場の建て替えなどを今後、検討していく予定だ。

設備投資と減価償却費の推移



■ 中期戦略

既存会場でシェアを引き上げた後は M&A も活用

中期戦略として、同社はオークション市場の業界シェア拡大を目標として掲げている。当面は既存会場だけで35%までシェアを引き上げ、その後はM&Aを活用しながら、更なるシェア拡大を目指していく戦略だ。

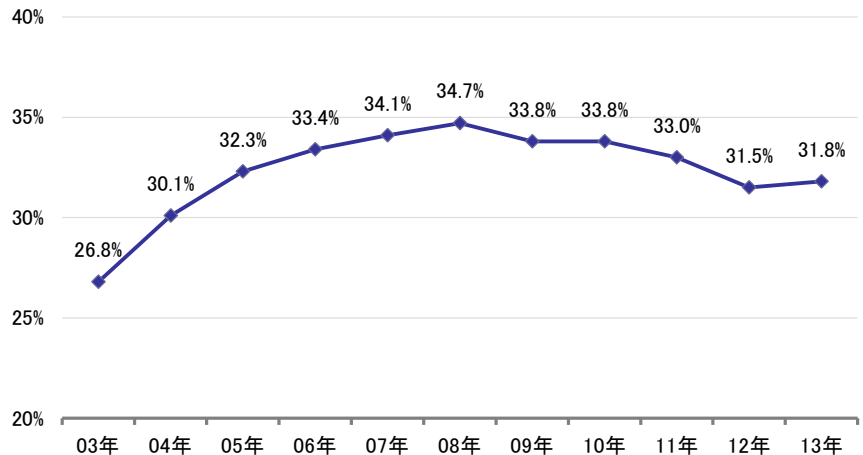
シェア拡大施策としては、成約率の高い良質のオークション会場であるという魅力を維持していくと同時に、来場者の増加に向け、会場内設備などの利便性向上に寄与する設備投資を継続して行っていく方針。また、主要会場においては適時、キャンペーン施策を行いながらシェアの拡大を進めていく。

ユー・エス・エス

4732 東証 1 部

2014 年 9 月 11 日 (木)

USSの出品台数シェア(暦年)



出所:株式会社ユーストカー

■ 株主還元策

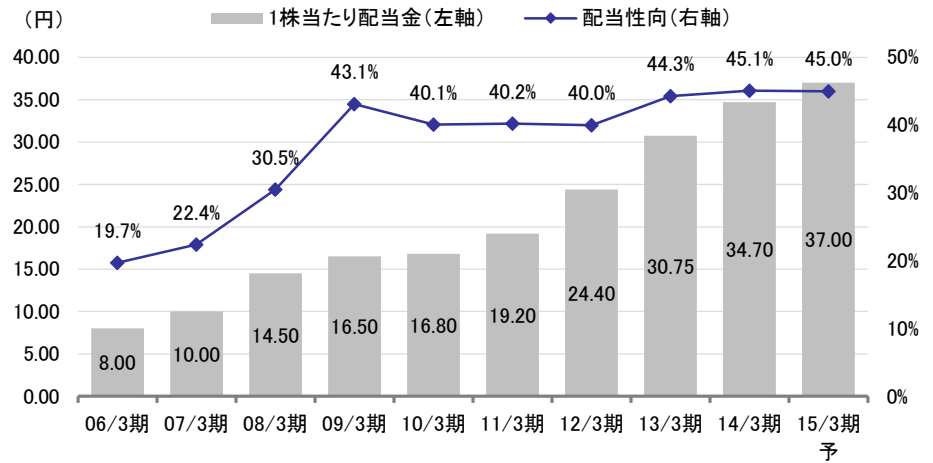
新たに株主優待制度の拡充策を発表

同社は株主還元策に積極的な企業として評価されている。配当金に関しては連続増配を続けており、連結配当性向基準で 45% 以上を基本方針として掲げている。2015 年 3 月期の 1 株当たり配当金は 37.0 円 (連結配当性向 45.0%) を予定している。

また、今回新たに株主優待制度の拡充策を発表している。従来は、1,000 株以上保有の株主に対して、グルメギフトの贈呈を実施していたが、今回は新たに 100 株以上 1,000 株未満の保有株主に対してもクオカード又はギフトカードの贈呈を決定した。個人安定株主の拡大を目的としており、前期末の株主数 6,561 名を、1 万名程度まで増やすことを目標としている。

なお、現在保有している自己株式 (発行株数の約 17%) に関しては、消却や M&A での活用を想定している。オートオークション市場における圧倒的な競争力を維持し、シェア拡大による収益の成長余地が見込めるなかで、今後も安定配当成長銘柄として注目されよう。

1株当たり配当金と連結配当性向の推移



※2013年10月1日付で1対10の株式分割を実施、1株当たり配当金は当該株式分割を遡及修正して表示

株主優待制度

所有株式数	変更前	変更後
100-500 株未満	(新設)	500 円のクオカード (年 2 回)
500-1,000 株未満	(新設)	三井住友 VJA ギフトカード 2,000 円分 (年 2 回)
1,000-10,000 株未満	USS オリジナルグルメギフト 3,000 円相当 (年 2 回)	USS オリジナルグルメギフト 5,000 円相当 (年 2 回)
10,000 株以上	USS オリジナルグルメギフト 10,000 円相当 (年 2 回)	(変更なし)

注：対象は9月末、3月末の株主

損益計算書

(単位：百万円、%)

	11/3 期	12/3 期	13/3 期	14/3 期	15/3 期予
売上高	61,417	64,009	63,243	67,949	68,200
(対前期比)	2.6	4.2	-1.2	7.4	0.4
売上原価	26,865	26,161	24,982	26,459	26,400
(対売上比)	43.7	40.9	39.5	38.9	38.7
販管費	10,220	9,895	8,955	8,808	8,799
(対売上比)	16.6	15.5	14.2	13.0	12.9
営業利益	24,332	27,952	29,304	32,680	33,000
(対前期比)	10.9	14.9	4.8	11.5	1.0
(対売上比)	39.6	43.7	46.3	48.1	48.4
経常利益	24,643	28,588	29,884	33,275	33,500
(対前期比)	9.5	16.0	4.5	11.3	0.7
(対売上比)	40.1	44.7	47.3	49.0	49.1
特別利益	69	40	22	80	-
特別損失	1,555	50	79	679	-
税引前利益	23,156	28,579	29,827	32,676	-
(対前期比)	5.1	23.4	4.4	9.6	-
(対売上比)	37.7	44.6	47.2	48.1	-
法人税等	9,149	11,517	11,438	12,520	-
(実効税率)	39.5	40.3	38.3	38.3	-
当期純利益	13,971	17,054	18,346	19,966	21,300
(対前期比)	9.9	22.1	7.6	8.8	6.7
(対売上比)	22.7	26.6	29.0	29.4	31.2
[主要指標]					
1株当たり利益(円)	47.8	60.9	69.3	77.2	82.4
1株当たり純資産(円)	420.0	445.0	462.6	508.2	-
1株当たり配当(円)	19.20	24.40	30.75	34.70	37.00
連結配当性向(%)	40.2	40.0	44.3	45.1	45.0
ROE(%)	11.7	14.1	15.3	15.9	-

注：2013年10月1日付で1対10の株式分割を実施、1株データは当該株式分割を遡及修正して表示

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ